

# 解放後の全国美術展覧会

——近百年來中国絵画史研究 二——

鶴田武良

はじめに

- 一、第一次全国美術展覧会
- 二、第二次全国美術展覧会
- 三、第三次全国美術展覧会
- 四、第四次全国美術展覧会

## はじめに

一九二七年から十年に渡った内戦、それに続く九年の抗日戦争、さらに四年間の解放戦争の中で、民衆への啓蒙、宣伝に大きな役割を果たしたのが美術、わけても絵画であった。それは成人の約九割が文盲であった旧中国において、とくに文盲率の高かった農村において、ある事柄を伝え、また注意を喚起するのにもっとも簡便で効果的な方法は図示すること、つまり絵画に拠ることであったからである。

民衆に対して絵画が大きな力を持つことを知った中国共産党は、中華人民共和国建国（一九四九年十月一日）の後も、美術運動の推進、とくに絵画の大衆化に力を入れ、省や自治区をはじめ、市、県など各級行政単位での美術展覧会を頻繁に開催した。その中で全国規模の展覧会には、例えば全国版画

展、全国国画展、全国新年画展、全国工人創作展、全国青年美術展などのように、原則として一定の間隔で、画種あるいは画家の職業、年齢を限定して行われた展覧会の外に、政治動向の節目節目にそれからの政治路線の宣伝と思想の引締を目的にして開催された、美術の全部門を対象とする美術展覧会がある。国務院文化組及び中国美術家協会共催の「紀念毛沢東同志在延安文芸座談会上的講話發表二十周年全国美術作品展覧会」（一九六二年五月）、国務院文化組主催「在延安文芸座談会上的講話發表三十周年紀念全国美術作品展覧会」（一九七二年十月）、同じく国務院文化組主催「慶祝中華人民共和国成立二十五周年全国美術作品展覧会」（一九七四年十月一日—十一月三十日、北京中国美術館）、「為熱烈慶祝華国鋒同志任中共中央主席・中央軍事委員會主席、熱烈慶祝粉碎四人幫篡党奪權陰謀的偉大勝利全国美術作品展覧会」（一九七七年二月十八日—四月十七日、中国美術館）、文化部主催「紀念文芸講話發表三十五周年美術作品展覧会」（一九七七年五月二十三日—六月、中国美術館）などである。その中で、とくに「全国美術展覧会」とよぶものは中国政府文化部と中国美術家協会とが共催した場合に限られている。

解放後の全国美術展覧会は一九四九年の第一次展に始まり、一九八九年に

は第七次展が開催されたが、はじめの五回については、第二次展のみが開催当初から「第二次全国美術展覧会」と呼ばれたほかは、いずれも後になってから廻って第一次展、第三次展、第四次展、第五次展とされたものであるから、全国規模の美術展覧会の中から、どれを「全国美術展覧会」とするかについては多少異論がある場合もある。

本稿では、関係資料のとりわけ少ない第一次から第四次までの、四回の全国美術展覧会について紹介する。

## 一、第一次全国美術展覧会

北平（北京）が平穩裡に解放された後、一九四九年三月二十二日、華北解放区及び国民党統治区の作家、芸術家は北平で始めて集会を開き、全国文芸工作者大会召集の準備工作を行った。集会は四十二名から成る籌備委員会を組織し、主任に郭沫若、副主任に茅盾、周揚を、秘書長に沙可夫を選んだ。四十二名の委員には徐悲鴻、阿英、艾青、葉淺予、古元が入っていた。三月二十七日、郭沫若は「盛大にして空前の団結を示すこの大会を挙げる主要な目的は、我々の経験を総括し、意見を交換し、相互に学習し、今後の全国文芸工作の方針、任務を確定し、新しい全国的な組織をつくることである」という談話を発表した。

それを承けて一九四九年七月二日、中華全国文学芸術工作者代表大会が北京で始まった。大会は九十九名から成る主席団を組織し、その中から常務主席団に丁玲、田漢、李伯釗、阿英、沙可夫、周揚、茅盾、洪深、柯仲平、郭沫若、曹靖華、陽翰笙、張致祥、馮雪峰、鄭振鐸、劉芝明、歐陽予倩を選任し、郭沫若が総主席に、茅盾、周揚が副総主席になった。大会代表八百二十四名の中には戦争や他の事由で参加できないものがいて、出席者は六百五十

名であった。そのなかで美術工作者代表は八十八名、美術組委員兼召集人は葉淺予、委員は江豊、艾青、蔡若虹、李樺、王朝聞、特偉、吳作人、古元、徐悲鴻、王式廓、丁聰、幹事は魯汀であった。

大会五日目の七月六日に毛沢東が講話を、周恩来が政治報告をそれぞれ行った。郭沫若は「新中国の人民文芸を建設するために奮闘しよう」と題して総報告を、茅盾は「反動派の圧迫下における闘争と発展的革的文芸」と題して国民党統治区十年の文芸運動について、周揚は「新しい人民の文芸」と題して解放区の文芸運動についてそれぞれ報告した。美術関係では次のような発表があった。<sup>(1)</sup>

江 豊「解放区の美術工作」

艾 青「解放区の芸術教育」

葉淺予「国統区の進歩美術運動」

劉蒙天「一軍三師の兵画兵運動」

七月十四日、大会は「中華全国文学芸術界聯合会章程」を通過させた。同章程は第一章総綱、第二章会員、第三章組織、第四章経費、第五章附則の五章二十一条から成り、これによって「中華全国文学芸術界聯合会」（简称「全国文聯」）が正式に発足した。

七月十九日、大会は閉会したが、全国文聯の成立に伴い、全国文聯を構成する中華全国文学工作者協會、中華全国戲劇工作者協會、中華全国電影芸術工作者協會、中華全国音楽工作者協會、中華全国舞蹈工作者協會などが相繼いで組織された。中華全国美術工作者協會は七月二十一日、北京中山公園の来今雨軒で成立し、主席に徐悲鴻、副主席に江豊、葉淺予を選んだ。なお全国委員、候補委員などの一覧表を「資料1」に掲げた。

この全国文代会に合せて四九年七月二日から十六日まで、「全国美術展

「文代会」が国立北平芸術専科學校で開催された。この展覧会は当時、「文代会美術展」の簡称で呼ばれたが、一九五五年に第二次全国美術展覧会を開催するに当って、遡って「第一次全国美術展覧会」とされた。

文代会美術展は北平芸専で展出の後、上海に移り、上海市南京路の大新公司（現上海市第一百貨店）三階画廊で九月一日から十五日まで展覧され、さらに九月二十七日から杭州で展示された。上海での観衆は四千二百余人であった。展出品は北平、上海ともに美術資料、画報、窗花（剪纸の一種）、剪纸、洋片、漫画、木刻、年画、連環画、油画、国画、雕塑など合計六百四件であったと伝えるが、上海での『出品目録』（挿図1、資料2）によると木刻二百二十八件、素描二十六件、国画三十八件、雕塑二十三件、漫画六十九件、年画百三件、画報三十四件、油画二十四件、水彩二十二件、洋片十九件、合計五百八十六件であった。なお、作品はすべて一九四三年から一九四九年までの間、即ち教育部第三次全国美術展以後に制作されたものであった。<sup>(4)</sup> 木刻が展出品のほぼ四割を占めるのに、中国画が三十八点、油絵が二十四点であったのは、その数年が、ほとんどの画家にとって、制作に専念できるような状況ではなかったことを裏付けるものであろう。また各画種とも抗日戦争や解放戦争、生産増強運動などを題材とした作品が大部分を占めることも、当時の社会情勢を反映したものである。漫画と年画が展覧会でそれぞれ一つの部門を構成するようになったことは、抗日戦争以来、両者が果たした役割の大きさを証するものであるし、その後の美術運動の方向を示したものと見えよう。

文代会美術展上海展出委員会は、上海展開催中に次のように各画種毎に順次、座談会を開いた。<sup>(5)</sup>

九月六日 木刻座談会、陳叔亮等四十人

九月八日 漫画座談会、米谷等五十余人

九月十日 連環画座談会、連環画工作者、美術工作者、出版商等六十余人

九月十一日 雕刻座談会、劉開渠等二十六人

九月十二日 新年画座談会、年画作者、出版商等四十七人

九月十三日 国画座談会、鄭午昌、陳秋草等四十八人

展覧会終了後、展出作品から絵画十九点、木刻十二点、年画十点、漫画十三点、雕塑八点を原色及び単色図版で掲載し、中、エスペラント、露、英語の序文、画題を附した『中華全国文学芸術工作者代表大会美術展覧会美術作品選集』（B4変型）一冊が一九五〇年七月新華書店から刊行された。

挿図1 第一次全国美術展覧会出品目録表紙

## 二、第二次全国美術展覧会

一九五三年九月二十三日から十月六日まで、北京の懷仁堂で行われた中国文学芸術工作者第二次代表大会で示された党と政府の芸術創作を奨励し強化する方針に基づいて、中国美術家協会は第二次全国美術展覧会開催の準備に取り掛かった。一九五四年一月、中国美術家協会第三次常務理事会は第二次全国美術展覧会開催を議決した。翌二月、中国美術家協会は「第二次全国美

「美術展覧会開催案」を決定し、各地の美術団体に通達するとともに、『美術』一九五四年二月号に次のような記事を載せた。

中国美術家協会主辦第二次全国美術展覧会徵集展品辦法

一、作品種類

- 1、絵画—墨画、油画、水彩、粉画、年画、諷刺画、宣伝画、連環画、素描、挿図、速写、……等を含む。
- 2、版画—木刻膠版、石版、銅版、……等を含む。
- 3、彫塑—円彫、浮彫、……等。
- 4、工芸美術品設計（民間美術工芸品は去年はじめて展出されたので、今回は含めない）。
- 5、建築設計。

二、本协会会员作品以外に、非会員の作品もまた応募できる。応募作品は一九五三年十月第二次全国文代会以後の作品を主とする。但し、一九五二年以来の優秀作品は参加できる。作品の大きさは制限しない。

三、応募作品には次の説明を附しておかなければならない。題目、完成年月日、かつて発表したか否か（どこで発表したか）、作者姓名、性別、年齢、本籍、勤務地、連絡先。

四、比較的大きな作品（例えば彫塑及び大幅の油画など）で運送に不便なもの、先に写真を送り、初審を通過してから実物を送付すること。運送費は美協が負担する。もし先に写真を送って初審に参加する場合は、原作の寸法を明記しておくこと。

五、応募作品は北京校尉营八号中国美術家協会展覽部宛、書留で送ること（全国美展参加と註記しておくこと）。

六、展覧会は本年十月北京で開催の予定である。作品の受付は一九五四年八

解放後の全国美術展覧会

月末で締切る。もし写真を送って初選に参加する場合は、七月十五日以前に到着するように送ること。

七、作品は展出後、責任をもって返還する。もし売却を欲する者は価格を明記して、処理に便利なようにしておくこと。

この通達を承けて、各地の美術工作者はそれぞれの居住地区の美協組織あるいは政府文化部門の組織と指導の下に鉱山、農村、工業地帯、名勝地に体験生活と写生に出かけた。例えば華東美術家協会は上海、南京、蘇州、無錫などの美術工作者を組織して賈汪炭鉱、仏子嶺ダム、浙東農村、蘇北産塩区に体験生活に行き、夏期には洪水防水工事に参加した。また雲南省の美術工作者は省文聯の組織の下に分れて東山砭山、少数民族地区、国境地帯に行つて体験生活を送つた。<sup>(6)</sup>

全国にわたつて、美協組織を挙げての創作推進活動であつたが、期待したようには進捗しなかつたらしい。『美術』一九五四年九月号は「第二次全国美展、準備仕事を積極的に進行」と題して次のような記事を出した。

中国美術家協会は第二次全国美術展覧会の準備のために、本年二月、各地美術団体に作品徴集の通知を出し、併せて会員に全国美展に参加するため積極的に創作活動を展開するよう呼びかけた。

第二次全国美展は、はじめ本年十月北京で挙行の予定であつた。しかし、中国美術家協会が建築中の展覽館が、施工単位が更に重要な建設工事に追われていたため、工事が延び、予定通りに完成することができなくなった。同時に、作品の質量を高めるため、各地の美術家が作品応募期日を延期し、より多くの時間をかけて創作したいと希望している。そのような状況を考慮して、美術家協会は第二次全国美術展覧会を延期して十二月に開催することに決定した。

今回の全国的美術展覧会を順調に開催するために、中央文化部は七月、各地文化局に、所属の美術事業組織が創作にかかり、併せて各地美協が観摩と評選工作を組織するよう通知した。中国美術家協会はさらに広範に作品を徵集し、また作品の徵集工作を進めるために、「第二次全国美術展覧会展出工作計画」を立案して各地に通達し、各地美協が計画に従い、責任を持って徵集、評選等の工作を行うように、また初選の作品を十月三十一日以前に北京に送付するよう求めた。

略——工芸美術設計（デザイン）及び建築設計（デザイン）は更に長時間の準備を必要とするため、明年単独で展覧会を挙行することにした。

第二次全国美展は北京で一ヶ月展覧したのち、上海、広州、漢口、重慶、西安、瀋陽の六大都市を巡回することに決定した。

また『文芸月報』五四年九月号は、華東美術家協会が華東地区の作品の徵集に責任を持っており、会員作品の外、非会員の作品も広く集めることを知らせた。

ついで『美術』五四年十一月号は、華東その他の地区で全国美術展参加作品の評選が行われたことを次のように報じた。第二次全国美術展応募作品の選出の状況を伝える、恐らく唯一の資料であろう。

華東美術家協会は、最近、第二次全国美術展覧会に参加する華東区作品の観摩及び評選展覧を行った。展出に先立って華東美術家協会は華東各地の美術作家を広範に動員して作品徵集工作を行った。展出時には各種美術作品七百八十三件が到着していた。十月十一日から上海文化俱樂部で内部観摩を行い、作品の種類によって九つの評選小組を組織して評選を行った。小組が第一段階の評選をした後、評選委員会がさらに評選して三百二十二件を選出した。その中の百件を北京に送って第二次全国美術展覧会に出品することと

し、残りの二百二十二件を一九五五年元旦、上海で展出することとした。評選は十四日に終了した。十五日午前、参加作品の作者大会を挙行し、評選委員会主任委員、華東美術家協会副主席頼少其が評選経過を報告し、中共中央華東局宣伝部部長夏衍が作者の創作努力を励まし、民主精神を發揚し、自由な競争と批評、討論を展開して、最後に正確な意見の一致に到達した。十六日から三日間、選出の作品を公開した。

西南区美術工作者協会は、すでに同区の第二次全国美展参加作品を北京に運送した。これらの作品は、八月に重慶で挙行した「西南区美術展覧会」から評選したものである。今回の展覧会は西南区五年來の最大規模で、内容も最も豊富な展覧会で、徵集した各種美術作品は合計二千四百四十二件、作者は五百十九人であった。評選の結果、千五百四十二件を展出した。その中には美術家の創作以外に、各民族の優秀な民間工芸美術品が少なからず展出されていた。展覧期間中に西南区美術工作者協会は執行委員会拡大會議を開催し、展出作品の中から再評選によって、国画、油画、水彩画、年画、雕塑、版画、宣伝画等合計百七十余件の全国美展参加作品を選出した。

西北美術工作者協会主催の「西北第二次美術作品観摩展覧会」も十月十九日から西安西北歴史博物館で開幕し、二十六日閉会の予定である。また第二次全国美展参加作品の評選を行うことになっている。観摩展覧会に参加した作品は合計百余件、作者は六十余名であった。

各省市、あるいは大行政区の美協組織は八月ごろから第二次全国美展出品作品を選ぶための展覧会、もしくは観摩会を開いて評選を行い、そこを通過した作品を北京に送った。北京での展出品選出は次のように行われた。<sup>(7)</sup>

この度の展覧会に全国各地から送られてきた作品は合計四千余件であった。<sup>(8)</sup>中国美術家協会は作品の種類に依りて七つの初選小組と各地区美協責任

者を含む一つの評選委員会を組織して、去年十一月初めから評選工作を始めた。評選の原則は主に作品の思想内容の正確性と教育意義で、作品の中に画家が総路線建設の過渡期に成就したことを反映しているか、労働人民の生産と戦闘中における精神面貌の表現を主要原則としているかということ、同時に取材の多様性と形象の真实性が表現方式の創造性に及んでいるかということであった。生活の中から創造形象に必要な根拠を取得する現実主義創作方法を提唱し、一般化・概念化と模倣に反対することであった。評選工作は極めて真剣で、少なからぬ作品が繰り返し返して評比され、ときには一件の作品について討論が開かれたこともある。初評と総評に前後二ヶ月間をかけた、四千余件の作品から漸く九百九十余件を選出した。

今回の展覧会は中国美術家協会が新に建築する展覧館で展出する。現在、展覧会は裱装、額装、展示計画を行っており、間もなく正式に開幕する。

『美術』五五年一月号は「第二次全国美術展覧会入選作品選刊」として作品十二点の図版を掲載しているから、五四年末にはただ会場の完成を待つだけであったようである。

ところが会場に予定されていた中国美術家協会展覧館の竣工がさらに後れたらしく、第二次全国美術展覧会は北京西直門外の蘇聯展覧館文化館を会場にして一九五五年三月二十七日に開会、五月十日に閉会した。入場券は一枚五分であった。開催に当って作品の題名、寸法、作者（出生年）、所属地を記したB6判、表紙とも五十六頁の『作品目録』（挿図2・資料3）が作成され、展覧会終了後、各画種から優秀作品を選んで原色及び単色図版に収めた『第二次全国美術展覧会（以下略）彩墨画選集』（五五年十月）、『年画、宣伝画選集』（五六年五月）、『油画、水彩、素描選集』（五七年三月）、『版画選集』（五七年五月）（いずれもB4変型）が人民美術出版社から刊行された。

解放後の全国美術展覧会

『作品目録』によると、彩墨画二百十四件、油画百三十件、雕塑九十件、版画百十七件、年画九十一件、連環画三十三件、招貼画五十一件、漫画九十四件、挿図四十件、水彩画八十五件、素描・速写五十一件、合計九百九十六件であった。出品作者は美術家協会会員、青年美術工作者、民間芸人及び人民解放軍美術工作者など合計六百十一名、うち女性は二十五名で、工作単位は全国三十六の省市にわたった。

表現形式の上では国画の代りに彩墨画という名称が用いられていること、新に招貼画、挿図、連環画、速写が加えられて、以後の美術展覧会を構成する部門、分野の基本が出来上ったことが注目される。

表現内容の上では、彩墨画、油画、水彩画、版画ともに抗日戦争や解放戦争、あるいは労働者や農民を題材にした作品が大部分である。しかし、「工農兵に奉仕する」という党の文芸方針よりも、「百花齊放、百家争鳴」の呼びかけが画家たちを創作に駆り立てていたようで、数年後に始まる社会主義リアリズムを強調した類型化や硬直化は全く見られない。董希文の「春到西藏」及び「開国大典」、羅工柳の「地道戦」、呉作人の「仏子嶺水庫」及び「画家齊白石像」、艾中信の「通往烏魯木齊」、黄胄の「出診図」、于非闇の

挿図2 第二次全国美術展覧会出品目録表紙

「牡丹」、関山月の「新開発の公路」などのように、それぞれの画家の生涯を通じての代表作のひとつに挙げられるべき作品が多いことが第二次展の特色である。第二次全国美術展覧会をはさむ数年は解放後の美術活動が最も充実し高揚していた時期であったといえよう。

### 三、第三次全国美術展覧会

『美術』一九五八年三月号は「第三次全国美術展準備中」として、建国十年の記念日を祝し、且つ十年来の社会主義建設中の美術事業の発展と成績を検閲するために、文化部と中国美術家協会が一九五九年国慶節に「第三次全国美術作品展覧会」を開催する計画であり、徵集作品の種類は各種絵画、版画、雕塑、動画面片設計（デザイン）、舞台美術設計、工芸美術などで、展覧会の準備工作及び創作計画はすでに始まっていると報じた。

しかし、そのころから中国は大躍進運動、下放運動、さらに反右派闘争に入り、美術界も「工農群衆に学ぶ」下放運動に忙しくなつたよう<sup>(9)</sup>で、五九年の建国十周年には全国美術展覧会は開催されなかった。代りに軽工業部、全国手工業合作総社共催の全国工芸美術展覧会が十月三日から故宮午門で開催された。展覧品は陶瓷、刺繍、花辺、織錦、染織、地毯、雕塑、金属工芸、漆器、玩具、編織工芸など十一種類三千五百余件であった。この展覧会は、前年来展開されてきた社会主義建設大躍進運動を承けて、建国十年間の社会主義建設の成果を示すために行われたものであろう。

翌一九六〇年六月十六日発行の『新観察』六〇年第十二期は、「全国美術展中の数幅の国画について」と題する短い記事を載せた。それによると、中国文学芸術工作者第三次代表大会（七月二十二日―八月十三日）開催を歓迎するために、中国美術家協会は全国各省市から選抜して送られてきた二千六百余

件の美術作品から九百余件を選出して全国美術展覧会を開いた。今回の全国美術展は全国の各分野における社会主義革命と社会主義建設の躍進する新面貌を反映し、党の正確な文芸方針の指導の下で美術創作の思想性と芸術性の迅速な向上と普遍的な繁栄を映し、また美術家たちの無産階級に奉仕する熱情の空前の高まりを反映したものであった、という。

この展覧会が後に、第三次全国美術展覧会とされた。

このときの『一九六〇年全国美術展覧会出品目録』（B6判、表紙とも四十二頁、挿図3）によると、展覧会は六月十七日から七月三十一日まで、故宮博物院乾清宮東西兩廊下、王府井大街帥府園美術展覧館（現中央美術学院陳列館）、北海公園園画舫齋の三会場で行われた。展出作品は全国二十七の省、市、自治区から選出したもので、中国画二百五十七件、油画九十九件、雕塑三十九件、版画二百六十五件、国画六十二件、連環画十五件、宣伝画四十二件、漫画五十六件、挿図九件、水彩・水粉三十六件、素描・速写十六件、剪纸十件、合計九百六十六件であった。その内容は、同目録に挙げる画題に拠ると、社会主義建設、解放戦争を主題にした作品が多い。また二名乃至数名の作家による共同制作、あるいは作家名を記さずに、例えば「中央美術学院中

挿図3 第三次全国美術展覧会出品目録表紙

「国画系一年級集体創作」というように記した、多人数による共同制作がすべての部門に見られることも第三次全国美術展覧会の特色のひとつである。

なお、『美術』一九六〇年八・九期合併号は、この全国美術展覧会が北京で展覧の後、九月八日から十月十六日まで上海で展覧され、観衆が十二万余人に上ったことを伝え、併せて特集「大躍進中の全国美術展覧会」で油画、雕塑、中国画、版画、年画、連環画、漫画・宣伝画について簡単な紹介をした。

この展覧会が文化部、中国美術家協会共催となっていないことから、一九六二年五月に共催された「紀念毛沢東同志在延安文芸座談会上的講話發表二十周年全国美術作品展覧会」を第三次全国美術展覧会とする見方もある。しかし、六二年の展覧会の展覧作品は文芸座談会の行われた一九四二年から六二年までの二十年間に制作された作品を対象としたものであるから、これを第三次全国美術展覧会とすることはできない。

#### 四、第四次全国美術展覧会

『美術』一九六四年第五期は、文化部・中国美術家協会共催の全国美術展覧会が九月二十六日、北京で開幕されたことを伝えた。いわゆる第四次全国美術展覧会である。

『美術』<sup>(10)</sup>の記事を総合すると、第四次展は全国二十六省区二市を東北、華北、華東、西北、西南、中南の六地区に分けて、各地区毎の入選作品を、例えば東北・西北地区は一九六四年十二月十九日から翌年一月十七日まで、華東地区は六五年一月三十一日から二月二十八日まで、西南地区は六五年三月十四日から四月十一日までというように、六四年九月から翌年七月にかけて順次北京で展出し、その後、上海、重慶でも展覧した。展覧作品は東北・西北地区三百余件、華北地区四百五十余件、華東地区四百余件、西南地区約四

百件など総計二千二十五件で、内容は中国画、油画、水粉画、水彩画、木刻画、宣伝画、連環画、年画、磨漆画、漫画、雕塑、剪纸などであった。

第四次展では十八の少数民族から七十三名の作者が参加し、そのうち、チベット族、彝族、トゥー族、ヤオ族、チャン族、タイ族は初出品であった。少数民族の美術活動の発展の成果というよりも、中国政府の対少数民族政策を反映したものとするべきであろう。第四次全国美術展覧会の出品目録については知るところがないが、『美術』の記事から推すと、工農兵及び業余作者の進出が著しく、「工農兵に奉仕する」という党の文芸方針を守り、大部分の作品が社会主義時代の工農兵群衆の生活と闘争を反映したものであったというから、題材の上でも、凶柄の上でも、社会主義リアリズムを強調した宣伝画的な性格の強い作品が多かったことと考えられる。

第五次全国美術展覧会は「慶祝中華人民共和國成立三十周年全国美術作品展覧会」として一九八〇年二月十日から三月十日まで北京の中国美術館で行われた。展覧作品は四百七十七件であった。

第六次全国美術展覧会は応募作品五千九百九十四件から入選作品十五部門三千七百二十四件を選び、部門を分けて北京、南京、上海、杭州、長沙、広州、成都、西安、瀋陽の九都市で八四年十月一日から三十一日まで同時に展出し、終了後、各部門の優秀作品約六百件を中国美術館で展覧した。

第七次全国美術展覧会は応募作品五千二百四十七件から入選作品三千三百二十八件を選び、部門を分けて昆明、ハルビン、上海、瀋陽、南京、北京、深圳、広州で八九年五月から八月にかけて展出し、各部門の優秀作品計三百一件を九月五日から十月五日まで中国美術館で展覧した。それらについては、すでに別稿<sup>(11)</sup>で詳述したので、ここでは繰り返さない。(九〇・十一・十二)



註

- (1) 『中華全国文学芸術工作者代表大会紀念文集』新華書店一九五〇年三月刊
- (2) 日本の紙芝居に似たもの。挿図4参照
- (3) 『十年来美術活動年表』(『美術研究』一九五九年第一期)所引「人民日報」
- (4) 『中華全国文学芸術工作者代表大会芸術展覽會美術作品選集』編輯例言
- (5) 『十年来美術活動年表』
- (6) 『第二次全国美術展覽會即將開幕』(『美術』一九五五年一月号)
- (7) 註(6)に同じ
- (8) 『新觀察』一九五五年七期によると四千二百余件
- (9) 『美術』一九五九年十月号
- (10) 一九六四年五期、六期、六五年一期、六期
- (11) 日中友好會館美術館『現代中国美術秀作展』(一九八八年一月) 図録所載「全国美術展覽會からみた中国現代絵画の動向」及び同館『現代中国の美術展』(一九九〇年九月) 図録所載「第七回全国美術展覽會について」

資料1

中華全国美術工作者協會委員名一覽

全國委員會

徐悲鴻 江 豐 葉淺予 力 群 蔡若虹 李 樺 古 元 劉開渠 華君武  
 梁思成 陳煙橋 倪貽德 陳叔亮 王朝聞 特 偉 王式廓 彦 涵 尹瘦石  
 朱 丹 丁 聰 王曼碩 胡 蠻 賴少其 艾 青 野 夫 張 仃 蔡 儀  
 龐薰琴 莫 樸 齊白石 吳作人 符羅飛 趙望雲 曹振峰 馬 達 陳秋草  
 雷圭元 朱鳴崗 石 魯 李可染 張漾兮(留有待解放區名額十二人)

候補委員

王流秋 黃賓虹 西 野 朱金樓 張文元 張樂平 胡一川 王子祥 師 群  
 艾 炎

主席 徐悲鴻

副主席 江 豐 葉淺予

常務委員會

徐悲鴻 江 豐 葉淺予 蔡若虹 劉開渠 吳作人 李 樺 古 元 王朝聞  
 倪貽德 力 群 朱 丹 野 夫

各部負責人

秘書長 葉淺予(兼)  
 編輯出版部 蔡若虹  
 運動指導部 王朝聞  
 展覽部 野 夫  
 福利部 江 豐(兼)

挿図4 中国美術家協會會員吳步乃氏の図解 洋片狀景

第一次全國美術展覽會出品目錄

木刻

題名	作者	地區
收獲	戚單	華北
讀了書又能寫又能算	"	"
鋤草	"	"
挖井防旱	"	"
封門	彥涵	"
審門	"	"
訴苦	"	"
豆選	"	"
把他隱藏起來	"	"
建橋	"	"
歡迎人民解放軍	劉峴	"
突破天險臘子口	劉蒙天	"
煤窖生產大發展	"	"
強渡大渡河	"	"
勝利秧歌	李梓盛	"
攻城	陳丕緒	"
延安保衛戰	"	"
哥哥的假期	古元	"
人民的劉子丹	"	"
旱(澆水灌地)	"	"
馬錫五調解訴訟	"	"
減租會	"	"
學校的菜園	"	"
離婚訴	"	"
捨身炸坦克	"	"
人橋	"	"
收割	"	"
挖財寶去	古元	西北

  

陝北農村的傍晚	石魯	"
民主評選會	"	"
胡匪劫後	"	"
羣英會	"	"
妯娌比賽	"	"
毛主席	楊涵	第三野戰軍
檢討會	"	"
誓師南進	"	"
陳毅將軍	"	"
擁軍愛民	"	"
哨兵	"	"
拾糞	胡考	華東
耕種在自己的土地上	夏風	東北
打水	馬達	西北
插圖	"	"
插圖	"	"
推磨	"	"
檢查	景初	華中
光明來了	"	"
開路	"	"
長沙水災	"	"
搶米	"	"
卸煤的時候	"	"
對話	"	"
賣國的蔣政權垮了	可揚	上海
迎親圖	"	"
老來苦	"	"
撤佃	"	"
老教師	"	"
反動派這樣征兵	"	"
水災	伍廷傑	華南

  

風聲鶴淚	野夫	上海
泛區難船	"	"
沒落與新生	"	"
看他們逃到那裏去	"	"
要飯吃	"	"
高爾基像	戎戈	"
魯迅像	陳烟橋	"
解放軍與農民	"	"
魯迅寫道「無論如何、將來一定是屬於我們的」	"	"
傍水人家	易瓊	西南
蛆虫人生	辛易	浙東
工人	"	"
大小頭買進賣出	克萍	上海
鄒韜奮	"	"
街頭	"	"
幼年插圖	建菴	華南
爺爺你看他吃得多飽多	易瓊	西南
肥	"	"
江南三月	趙延年	上海
飯攤	"	"
老闆娘「把點吃」吧	"	"
小主人	"	"
他們向南方去了	徐甫堡	"
鄉村小景	"	"
車水	丁正獻	浙東
受難	陳望	南洋
佬族之家	"	"
洗衣婦	陸田	華南
石工	"	"
拾柴的孩子	"	"
建造新校舍	宋城甫	浙東
老農婦	"	"
國民黨統治下的生產者	龍廷霸	"

  

中國人民說話了	懷江	"
趕場	漾兮	西南
車碼頭	"	"
飢餓的憤慨	"	"
老廚娘	"	"
人市	"	"
我們自己的隊伍來了	"	"
搶米	"	"
石景山運煤工友閱油印報	李樺	華北
石景山發電工友搶修發電機	"	"
夜的恐怖	"	"
裏外同心	"	"
快把他扶進來	"	"
團結即是力量	"	"
教授生涯	"	"
新兵	李志耕	上海
爲了什麼	"	"
磚工	張一山	浙東
簷下	"	"
飼豬	金逢孫	"
鄉姑	納維	華南
無言的抗議	"	"
失蹤者的下落	"	"
回到家園	余白墅	上海
家裏來了客人	黃永玉	香港
一家人	"	"
集體生產	"	"
晨忙	麥桿	上海
碼頭工人	"	"
釋放回來的爸爸	"	"
魯迅像	"	"
母與子	"	"
拉牽	馬勒	香港

解放後的全國美術展覽會

工廠	張乃雄	上海	修理槍機	莫凡	西北	素描	作者	地區
老農	新波	香港	小同志你累不	牛文	西北	題名	作者	地區
看守	朱鳴岡	台灣	登岸信號彈	燁克	香港	小先生	芮光	西北
賣血後	劉韻波	范雲	運輸生產	肖肅	香港	素描柒張(照片)	王流秋	西北
父子	南關戰鬥	劉韻波	過冰河	趙在青	香港	最後總攻杜匪穴	黎明之前	香港
三代	修橋	范雲	出發前	黃永玉	香港	參軍(照片)	黎明之前	香港
豐盛的午餐	民兵生活	范雲	攻屯留縣	羅工柳	香港	黎明之前	黎明之前	香港
爭取生存的空間	攻屯留縣	范雲	熱河風景	張映雪	東北	焚燬舊契	陳因	東北
迫害	熱河風景	若夫	訴苦之二	彥涵	華北	讀報組	郭鈞	華北
過年的準備	要活命就得要大伙兒起來揪(石版畫)	夏風	女英雄	劉峴	華北	大石印機在開動	阿老	華東
石工	毀滅	魯莽	翻砂	王流秋	華北	農民像	阿老	華東
暴風雨中	男耕女織圖	蘇光	豐收	馬達	華北	揚場	阿老	華東
釋放回來	改造二流子	蘇光	豐收	張映雪	華北	栗裕將軍	黎冰鴻	華北
街頭畫報	生產支前	蘇光	豐收	古元	華北	修自己的路(三幅)	肖肅	華北
牛犍變工	捷報	蘇光	豐收	張映雪	華北	劉司令員在南京市工人代表大會上	肖肅	華北
勝利歸來	一個人倒下去千萬人站起來	蘇光	豐收	張映雪	華北	喝水	馮法祺	華北
豐衣足食	幫助抗屬	蘇光	豐收	張映雪	華北	長辛店鐵路工人趕修車頭迎接七一	馮法祺	華北
修紡車	歡迎南下劉鄧大軍	蘇光	豐收	張映雪	華北	鐵工廠	馮法祺	華北
送馬	打場	蘇光	豐收	張映雪	華北	鋸木工人	馮法祺	華北
新式練兵	搶修黃河堤	蘇光	豐收	張映雪	華北	拾柴的孩子(照片)	符羅飛	華北
送行	待眼	蘇光	豐收	張映雪	華北	農婦	符羅飛	華北
分配果實	市集	蘇光	豐收	張映雪	華北	讓蔣介石封做榮譽軍人之後	符羅飛	華北
修路	老百姓搶救傷兵渡黃河	蘇光	豐收	張映雪	華北	人民的聲音在呼喚我	楊太揚	華北
勝利的歸來	向羣衆告別	蘇光	豐收	張映雪	華北	嗷嗷待哺	特偉	華北
怎樣養娃娃	秋收	蘇光	豐收	張映雪	華北	你的病症就叫做「營養缺乏」	特偉	華北
互助組播種去	漁民生活	蘇光	豐收	張映雪	華北	土地	邵宇	華北
雪地攻城戰	連環畫攤	蘇光	豐收	張映雪	華北	趙占魁	肖肅	華北
學刺殺	關夫生	蘇光	豐收	張映雪	華北	盧連玉訴苦	曹振風	華北
強渡黃河	打了土頑回來	蘇光	豐收	張映雪	華北			

解放兒童	陸鴻年	華北
毛主席像	王美沅	"
摘下生產新鮮的果子慰勞解放軍	田世光	"
學習政治	吳為	"
學文化	李可染	"
送出征	"	"
窮人翻身	"	"
在街頭	"	"
老農夫	齊白石	"
在世界和平大會上聽到南京解放消息	徐悲鴻	"
嘉陵江繚夫	李斛	"
偵察	"	"
慶祝「五一」勞動節(五條)	黃均	"
江南人民歡迎解放軍	金浪	"
徵民佚	陳緣督	"
入城式	董希文	"
修蘆溝橋	宗其香	"
豆選	姜燕	"
豐收	劉淩滄	"
歸來	陳淑亮	華東
打狼保畜	尹瘦石	内蒙
人畜兩旺	"	"
嘉陵江上	宗其香	華北
重慶東水門	關山月	重慶
享堂峽水之流	"	"
紡織	"	"
春耕	"	"
春耕	"	"
塔峯寺廟會	"	"
七十孤老	漾兮	香港
母興子	漾兮	香港
花市漫寫	陳秋草	上海
趕集	龐薰琴	"

苗族婦女	"	"
苗族之舞	"	"
軍民一家	任率英	"
慰勞	李斛	"
灌松圖	陳蔭	"
賣花女	蔣兆和	華北
題名	作者	地區
毛主席側面像	石榴	華北
朱聰司令塑像	"	"
民兵	王朝聞	"
農工之家	劉開渠	上海
撫幼・工・耕種	"	"
農家女	"	"
魯迅像	"	"
蔡子民	"	"
文化先鋒	麥桿	"
大家生產	蔡里安	香港
工人頭像	滑田友	華北
生產	"	"
軍隊向前進	鐘敬之	"
小八路	王朝聞	華北
毛主席浮彫像	"	"
毛主席胸像	"	"
解放旗	凌春德	"
將革命進行到底	王丙召	"
生產	鄒佩珠	"
毛主席・魯迅側面浮彫像	王臨乙	"
解放戰士	王丙召	"
人民解放軍	劉榮夫	東北
無名英雄像	蘇暉	東北
	馮香生	東北

題名	作者	地區
跳火神救不了命	華君武	東北
槍聲來自此處	"	"
一舉一動	"	"
美國種初生雞	"	"
乘興而來敗興而歸	"	"
哀樂指揮	"	"
一樣烟肉一邊冒烟	"	"
耗子搬家	"	"
放虎歸山	"	"
推完磨殺驢	"	"
這就是證據	"	"
美式武器	朱丹	"
骨裏熬油	"	"
總統府設防圖	"	"
美，胖起來吧，要聽我指揮	蘇暉	"
自欺之談	施展	"
把他從棺材裏扶起來	"	"
刀下的勝利者	"	"
多嘗幾個吧	"	"
自衛戰爭的第二條戰線	張仃	東北
擋不住的偉大力量	"	"
直穿心臟	黃鑄夫	"
天作之合	英韜	華北
反對戰爭販子保衛和平	蘇光	西北
民主	"	"
虛偽的和平	蔡若虹	北平
美國傾銷下之中國工業	新波	香港
蔣記憲法	"	"
春夢圖(共二十六幅)	漫畫工	上海
送葬曲(共十二幅)	學團	"

新門面舊客人	米谷	香港
漁翁之意不在魚	"	"
空箱記	"	"
和平之門從未關過	"	"
蔣萊子娛親	"	"
溪口的總機關	"	"
等對方來握手	"	"
起草方案	"	"
蔣經國也算武松	"	"
蔣經國冒充包龍圖	"	"
天下父母的供狀	"	"
過河卒	"	"
誅逆	廖冰兄	"
燃血求知	"	"
教授之餐	"	"
方便之門	"	"
鑿壁偷光	"	"
犬視	"	"
希特勒的第五縱隊	"	"
阿庚	"	"
重講打、你想和肥佬王	"	"
三位一體	特偉	"
圈中有彩	"	"
只怕它不肥	"	"
等等還有	"	"
大水冲到龍王廟	"	"
現實圖	"	"
光明的遠景	丁聰	"
中國現狀	譚彥	"
夜深人靜	方成	上海
校舍全景	張樂平	"
沒有買到	張樂平	"
大千世界	"	"
強烈的對照	洪荒	"

為人民公僕	陶謀基	"	響應「十一」運動(屏四幅)	"	"	張	辛集市	"	直友	"
大鬧審國府	張文元	香港	消滅蔣匪人民翻身(兩幅)	張	行	"	年畫研	"	民間藝	"
天堂記(共六幅)	葉淺予	北平	喜氣臨門(原稿)	"	"	"	努力學習提高文化	"	鄧野	"
虎王殺狗記	"	"	兒童勞軍(原稿)	"	"	"	節氣表	"	奇捷	"
漫畫選集	沈同衡	上海	歡迎人民解放軍入城	"	"	"	參軍	"	莫樸	"
年畫			翻身樂	夏	風	"	開展爆炸運動	"	莫樸	"
題名	作者	地區	組織起來	"	"	依景文	分果實圖	"	郭鈞	"
新福祿壽	蘇光	西北	男耕女組大家致富	馬	驥	王式廓	千古罪人	"	古一舟	"
農家歷	"	"	參軍保田最光榮	"	"	羅工柳	五子圖	"	郭鈞	"
給軍屬拜年	"	"	人民翻身興家立業	"	"	顧羣	王秀鸞	"	吳勞	"
發展生產支援前線	程獲希	"	勞武結合	芳	山	"	歡迎新戰士	"	陳因	"
農家樂	劉正挺	"	東北人民解放軍解放四平(原稿)	古	元	冀魯豫	慶功圖	"	柔堅	東北
學文化	"	"	人民翻身合家歡慶	安	林	美術組	公審賣國賊蔣介石	"	鄒雅	華北
講求衛生身體健康	鍾靈	"	物還原主	劉	迅	郝雲甫	參軍	"	金浪	"
解放軍攻城戰	牛文	"	七月里晒紅高粱米	金	浪	馬琦	萬民同慶	"	協美術	"
領回土地證來	"	"	賀新年	"	"	牛健寅	慶祝勝利大會	"	部	"
農家曆	陳岳峯	"	劉伯承將軍南下圖	金	浪	"	人民的無敵炮兵	"	勞郭	"
選舉圖	力羣	"	解放軍與兒童是好朋友	馮	真	"	養羊得益	"	彥涵	"
做軍鞋	張景文	華北	娃娃戲	"	"	"	紡織互助	"	古一舟	"
支援前線迎接勝利	馬振	"	學習文化	鄧	澍	"	假期裏回家談到戰場	"	學時	北平
識一千字	張曉非	"	摘棉花圖	"	"	吳為	翻身的農民夜生活	"	郭北巒	"
發地照	邢璉	内蒙	農家圖	"	"	李少言	種棉紡織團	"	施展	西北
村選大會	"	"	一家民主	冀	魯	陳興華	新年勞軍	"	施展	東北
打狼保畜	尹瘦石	"	村增加兩頭牛	冀	魯	陳興華	支援前線	"	陳興華	東北
人畜兩旺	"	"	等價自願互助	會	聯	西野	軍民一家	"	西野	"
發展生產	齊兵	"	生產增福蔭	趙	金	黎冰鴻	民主聯軍大反攻	"	黎冰鴻	華東
林業生產	烏勒	"	勞動結子多	趙	金	張啓	努力建設同過和平民主日子	"	黎冰鴻	華東
慶功圖	柔堅	華東	挖河疏水	王	柏	張啓	慶祝陽德全綫通車剪彩	"	張啓	華北
提高生產共享自由幸福生活	黎冰鴻	"	公審賣國賊	鄒	雅	古元	典禮圖	"	柏華	"
合家歡樂慶豐年	田風	東北		"	"	古元	有地也有牛生產不發愁	"	古元	"
蘇軍幫助秋收	"	"		"	"	古元	夫妻識字	"	古元	"
加緊學習消滅文盲	直友	"		"	"	金浪	紡線圖	"	金浪	"
歡迎狀元回鄉	"	"		"	"	"		"	"	"

冀南	二張	戴澤	北平
蘇北	一張	鄭宗鋈	北平
淮海	一張	李宗津	北平
阜東	一張	馮法禪	北平
鹽阜	一張	艾中信	北平
衛獲	一張	胡考	華東
前衛	一張	左揮	華北
濱海	一張	孫宗慰	華北
學習	一張	迎修機車支援前線	華北
自衛	一張	趕修機車支援前線	華北
工農	二張	知識青年開始了靠攏工人	華北
農民	二張	搬拉坡	華北
渤海畫報	一張	兒子立了功	華北
支前都是爲自己	特刊二張	號外	華北
將革命進行到底	一張	下鄉簡記之一	華北
進軍畫報	二張	修鍋爐	華北
進攻畫報	一張	重建	華北
勝利報	一張	陷人井	華北
戰鬥畫刊	一張	狂歡	華北
運西	一張	修電線	華北
荊來法連長	一張	爆炸模範王光明	華北
焦五保	一張	幫助抗屬收割	華北
北岳畫報	一張	農民生活之一	華北
職工畫報	三張	之二	華北
五一畫刊	一張	工人	華北
題名	作者	地區	
紡線	胡考	華東	
大紅花	涂克	華北	
春耕	涂克	華北	
小組會	莫樸	華北	
分地	胡一川	華北	
開灣礦工	胡一川	華北	
攻城	胡一川	華北	

歡迎解放軍渡江	戴澤	北平
歡迎解放軍	鄭宗鋈	北平
買者與賣者	李宗津	北平
修電線	馮法禪	北平
反扶日大遊行(大畫無框)	艾中信	北平
保證不停電	胡考	華東
清算	左揮	華北
爸爸媽媽下地去了	孫宗慰	華北
縫新衣	迎修機車支援前線	華北
秋收	趕修機車支援前線	華北
迎接解放	知識青年開始了靠攏工人	華北
搬拉坡	白興仁	華北
兒子立了功	章啓美	華北
號外	吳作人	華北
題名	作者	地區
下鄉簡記之一	慈旭	華北
修鍋爐	涂克	華北
重建	黎冰鴻	華北
陷人井	涂克	華北
狂歡	涂克	華北
修電線	黎冰鴻	華北
爆炸模範王光明	涂克	華北
幫助抗屬收割	張竹	華北
農民生活之一	符羅飛	華北
之二	方菁	華北
工人	方菁	華北
海邊	方菁	華北
失去營養的人	方菁	華北

菜市	盛此君	上海
鬻雜	潘思同	上海
船埠	龐薰琴	上海
鎔爐工人	戴英浪	上海
風雨欲來	田宇高	上海
拾荒	吳耘	華中
鄉村	吳耘	華中
不要殺他	吳耘	華中
題名	作者	地區
遮不住天下耳目	黎冰鴻	華東
蔣介石是美帝國主義走狗	黎冰鴻	華東
蔣介石欺騙人民	黎冰鴻	華東

民主選舉	涂克	華北
踴躍支前	涂克	華北
軍民一家	涂克	華北
生產致富	田零	華北
人民慰勞解放軍	吳聯英	華東
閻王殿	馮真	華東
改造二流子	馮真	華東
打場	顧羣	華東
豆選	顧羣	華東
奪紅旗	顧羣	華東
慶祝北平解放	宗其香	華東
學文化	鄧樹	華東
軍民一家	張啓	華東
勝利	顧羣	華東
大檢閱	鄧樹	華東

附記  
 原本是B6判、表紙とも十頁、各頁とも中央を境に左右に縦二列の横組である。通し番号又は部門毎に番号を付ける予定であつたらしく、各列・各部門の左上に「編號」の文字が入っているが、数字は無い。本稿ではその二字を省いた。  
 また、題名、作者名に誤植と考えられる箇所があり、地区の表記にも矛盾があるが、原本のままにした。

本稿の一部は鹿島美術財団昭和六十一年度及び六十三年度「国際交流の援助」による資料収集の成果である。